

愛顔 かがやけ 池島魂



～「今日も楽しかった。明日も楽しみ。」と思える学校を目指して～

発行：令和8年5月29日（金）NO6 文責：校長 津田 幸一

心をみつめる教育週間 6/29～7/5

2か月が経ちました。新しい担任の先生にも慣れ、遠慮のない関係の中で、自分らしさを発揮できるようになってくるころです。

だからこそ、生活リズムが崩れてくる時期でもあります。「よく遊び、よく働き、よく学ぶ」ことの基本は、規則正しい生活習慣です。御家庭でのお声掛けをよろしくお願いいたします。

さて、ご家庭で、子供たちはその日にあった学校の出来事を話しているでしょうか。

ご家族に、あれやこれやと話をすることは、子供たちが明日の学校生活へのエネルギーとなるものです。

ぜひ、話すように促されてみてください。

話の中に、学習での発見等が出てくるといいですね。



令和2年度「全国いじめ問題子供サミット」資料より

心を見つめる教育週間は、子供の豊かな心性を育むことを目的として、道徳教育や特別の行事などを通して、「命の大切さ」「思いやり」「感謝の気持ち」などの心を育むための機会です。

近年、社会は複雑化し、子供を取り巻く環境も変化しています。こうした中で、健全な成長を遂げ、社会の一員として主体的に生きていくためには、豊かな心性を持つことが重要です。子供が自身の心と向き合い、自分自身や他人について深く考える機会を設けることで、豊かな心性を育むことを目的としています。

この週間を通し、子供がより良い人間関係を築いたり、社会の一員として責任感を持って行動したりすることができるようになることが期待しています。

週間中は、命の大切さについてしっかりと学習していくのですが、いじめについては特に考えさせる機会です。

いじめは、被害児童の生きたいという気持ちを蝕む、命に係わる重大事項です。その対応はチームで行うことを共通理解しています。

右の図は、「いじめの4層構造」の図です。

いじめを根本からなくそうとすることは、この構造を理解して臨む必要があります。

直接に関わらなくとも心理的にいじめに賛同している「観衆」。いじめの存在に気づいているが、見て見ぬふりの態度をとっている「傍観者」。この両者を、いじめを積極的に止めようとする「仲裁者」に変容させること。そのための全体指導が重要です。

このことを念頭に置きつつチームで指導をしていきます。

わたしと小鳥と鈴と ～みんなちがって みんないい～

表題は、みすゞさんの代表作の1つである詩名です。子供から大人まで多くの人に愛されています。この詩の中では、誰もがそれぞれ異なる個性を持っていることが、肯定的に描かれています。個性や違いを認め、尊重することの大切さを訴えた詩と言えるでしょう。

この詩に限らず、みすゞさんの詩は、自然や動物、子ども、人生など、様々なテーマを扱っています。その中でも、特に命の大切さや、弱者への優しさといったテーマを多く取り上げており、読者に深い感動を与えてくれます。

教育週間のテーマである「命を大切にすること」という感性を育むのに、よいきっかけとなるだろうと思います。

児童生徒の皆さんへ 本をたくさん読んで、心を耕しましょう！